

越中一宮

<https://www.takase.or.jp>



七月・八月の祭事

月次祭（毎月一日・十三日／九月は一日のみ）

七夕祭並びに技芸上達祈願祭（七月七日）

除熱祭（七月二十二日）

人形感謝祭（七月十七日）

中禮祭（八月十六日）

四季折々。

高瀬神社の境内は、
季節の草花であふれています。



「感度が鈍化」

宮司 藤井 秀嗣

今年の境内は梅、桜、椿、ツツジなどが順番に咲き、しかも満開で例年になく華やかな社頭となりました。参拝者をはじめ、私たち職員の目を楽しませてくれました。今年は当社のみならず、どの場所の、どの花も満開だったように思います。当社の場合、特別な手入れをしていないのに例年以上に咲いたのはどうしてなのか不思議でした。

動植物は時折、何かの予兆として大量発生したり、突然消滅したりするようなことがあります。そのような様子から次に起こる事態を私たちに知らせてくれているのではないかと思うことがあります。今年の満開の花々も何かしらの暗示だったのかもしれないませんが、せっかくの注意喚起も私たちが気づかなければ何にもなりません。

学生時代の恩師が毎月、冊子を発行されており、その中に

「感度が鈍化」とありました。上から読んでも下から読んでも「かんどがどんか」。頭脳が衰え、足腰も衰え、身体の上からも下からも弱ってきているというご自身のことだそうです。

若い時は身体の内外ともに鋭い感覚を持ち合わせていますが、年を重ねると（時間の経過で）段々衰えてきます。いつまでも感度良好でいるのは難しいことかもしれないませんが、なるべく必要な感度を磨いて維持したいものです。今、私心がけていることは、大神様の御神意をより強く感じられるように誠心を磨くこと、そして氏子崇敬者の心根を敏感に察することができるよう真心の感度を更に磨くことです。

最近のニュースの中で感度鈍化の最たる人と思われるのが、かの国の大統領です。名誉や欲望に向いた感度が冴えて、それ以外の感度は相当に鈍化しています。

明治天皇御製に

たへがたき 暑さにつけていたでおふ
人のうへこそ 思ひやられる

（口語訳）この耐えがたい暑さにつけても、ロシアとの戦争で負傷して、いま苦しんでいる人々のことが、身にしみて思いやられることだ（明治三十七年）。と、日露戦争の折に詠まれています。負傷者への深い思ひ召しが詠われており、国家元首たる在り様が示されています。

また、終息しないコロナ禍や現在行われている戦争の影響によって、わが国は社会的経済的に厳しい状況となっています。こういう時こそ心の感度を磨き、相手の心根を察して相互扶助できるようにしておかねばなりません。

昭和皇太后御歌に

人のため 身のためものをおもふこそ
うつせみの世のならひなりけれ
（口語訳）世の人のため、わが身のため、心をつくしてさまざまに思いめぐらすことこそ、この世に生きる人の持つべき心のありようというものです（明治三十二年）。と、あります。このような心を持つ人が多くなれば、世の中の問題は減少し、穏やかで優しい社会になることでしょう。

夏越の大祓で清められた心身に、感度良好なる心を添えるべく、更なる心磨きに励みたいものです。



満開の桜の中を参進

桜の祭典 春季祭

境内のソメイヨシノも満開を迎えた四月十日、北陸地方の長い冬の終わりと、水溫む麗らかな春の訪れを寿ぐ大祭「春季祭」を斎行しました。

祭典では、ふたたびの春の恵みと大神様のご加護に感謝の真心を捧げ、やがて迎える秋の豊穡と無事の収穫を祈念しました。

あわせて農事功労者表彰並びに 感謝状授与式

本格的な夏の到来を間近に控えた
六月十日、その年の五穀豊穡を祈る
「**祈年穀祭**」を斎行しました。

新型コロナウイルスの感染予防を
第一に考え、令和二年より
ご案内を代表の方に限定し
ての斎行が続いた本祭典で
すが、本年は石岡敬夫、藤井秀之
両責任役員、井波地域農業者会会
長 水野敬一氏、高瀬区長 岩倉保
男氏他、約四十名の皆様のご参列
のもと、盛大且つ厳粛裡に斎行す
ることが出来ました。



「浦安の舞」五穀豊穡を祈って

祈年穀祭斎行

この日、参向使をお務めいた
いたのは、となみ野農業協同組合
の荒川弘章氏。天候や害虫の災い
のない無事の豊作を祈る祭文の奏
上の後、五穀豊穡の願いを込めて
大前に玉串を捧げました。

祭典に引き続き、齊藤勇一氏が
農事功労者表彰、また、今般、絵
画「**残照**（梅木信作画）」をご奉
納いただきました梅木宏真氏が感
謝状を受けられました。

昭和祭斎行



昭和天皇の
ご聖業を偲んで

緑風も心地よい四月二十
九日、昭和天皇の数々の尊
いご功績を讃えて「昭和祭」
を斎行しました。

祝祭日には 国旗を掲げましょう

田の面まぶしい井波の里にも、
もうすぐ夏が訪れます。



参向使、被表彰者他の皆様と

この日、四月二十九日は、昭
和六十三年までは「天皇誕生
日」として、平成元年からは「み
どりの日」、そして平成十九年か
らは現在の「昭和の日」として、
今日に至るまで長く国民に親し
まれています。
祭典では宮司が、末永い皇室
の弥栄と国の隆昌を祈念し、玉
串を奉りました。

祈年穀祭 神輿渡御

御神火が里々をめぐる

六月十三日、澄みわたる初
夏の青空のもと、大神様の御
神霊をお遷しした神輿と、
祭儀の中で古式に則り鑽り
出された御神火が、散居の
里々、砺波野の町々を巡行し
ました。

この日、供奉されたのは、
当神社責任役員 石岡敬夫
氏、高瀬区長 岩倉保男氏、
御神火奉持所役 大和弥寿夫
氏他の皆様。例年のごとく、
なんと農業協同組合、福光
農業協同組合、いなば農業
協同組合、となみ野農業協
同組合の四力所にて、御旅所
祭を奉仕し、各事業所の皆
様のお見送りをいただき、滞
りなく還幸しました。



写真提供 となみ野農業協同組合





献花祭斎行

六月十一日、高瀬遺跡「第四十八回菖蒲まつり」の開催にあわせて「献花祭」を斎行しました。

今年、国史跡五十周年を迎えた高瀬遺跡保存協会からは、谷口信夫会長以下五名の皆様が参列され花菖蒲を奉納。高瀬の里の平穏と、国史跡五十周年記念式典の成功を祈念して玉串を捧げました。



八乙女山風神堂例祭

木漏れ日も眩い六月五日、八乙女山風神堂の例祭並びに開山祭を斎行しました。この風神堂は、季節の変わり目に吹きすさぶ「井波風」の根源と伝えられる「風穴」の鎮めとして約千三百年前に建立。以来この井波地域を強風被害から護る守護神として崇敬を集めています。当日はおよそ六十名のご参列のもと、祭祀を厳修しました。

献穀田だより



風薫る五月二十一日、当社献穀田において恒例の「御田植祭」を斎行しました。二十四節気の「小満」にあたるこの日は、古くより陽気が盛んになり、山野の草木が実をつける頃とされています。小さな早乙女達（こがねいろ）が心を込めて植えた苗も、秋にはきつと黄金色の見事な穂波に育つことでしょう。



御田植祭斎行



ご祈祷のご案内

高瀬神社のご祭神は福の神、縁結び・医療医療の神として全国より広く崇敬を集める大国主大神（大国さま）です。

当神社では、交通安全（車のお祓い）・家内安全・良縁成就（縁結び）・心身健全・厄除け・病氣平癒他のご祈祷を、心を込めて毎日ご奉仕しています。

お気軽に社務所までお問い合わせ下さい。

ご祈祷料 1件につき5,000円以上思召し

高瀬神社社務所 0763 (82) 0932

今市子展「妖魔、神と仏の間で」



©今市子「百鬼夜行抄」(朝日新聞出版刊)

神道と仏道のはざまでゆらりと蠢く妖魔の世界に翻弄される主人公たちの展覧会を開催します。

期間 令和四年七月一日（金）～七月十日（日）

午前九時～午後五時

会場 越中一宮 高瀬神社参集殿 【入場無料】



牛嶽社めぐり

第四回 今山田牛嶽神社

標高九八七メートル、太古より地域の人々が敬仰して措くあたわざる神体山「牛岳」。東は立山連峰・白木峰を遥かに仰ぎ見、西は白山連峰・金剛堂山を見はるがし、庄川・小矢部川の両流が富山湾に注いでいるのが一望できます。

今回紹介する今山田の「牛嶽神社」は、富山市山田今山田に鎮座しています。旧山田村内（現富山市山田）には牛嶽社がもと十六社ありましたが、その後、廃村が生じた為、十社（鍋谷・居舟・赤目谷・湯・小島・白井谷・沼又・牧・今山田・宿坊）が存続しており、今山田の牛嶽神社もその中の一社です。

旧社号には「牛嶽大明神」や「宇志多気権現」とあり、正徳二年（一七一二年）の氏神帳には「牛嶽」に関する記録が残っていることから、古来より氏子の崇敬も篤く、春秋の祭礼も厳肅に奉仕されてきた事がうかがえます。現在春祭は四月十四日、秋祭が十月二十六日に行われます。



長い石段の先に鎮座する本殿

神社名	牛嶽神社
鎮座地	富山市山田
御祭神	大己貴命
宮司	黒田侑希
境内地	一二〇坪

人形感謝祭のご案内

— ありがとうの心をこめて —

日時 7月17日(日) 10:00より
場所 高瀬神社本殿
受付 7月16日(土) 9:00~15:00
7月17日(日) 9:00~ 9:45
祈願料 3,000円からお納め下さい。
(手提げ袋1袋程度につき)

古くなった人形に感謝し、お祓い、お焚き上げをするお祭り「人形感謝祭」を行います。役目を終えた「人形」や「ぬいぐるみ」をお持ち寄り下さい。



大輪あさがお展開催



期間 8月5日(金)~8日(月)
展示時間 7:00~12:00

今年も南砺あさがお会（森田光正会長）主催のあさがお展が開催されます。

今回で5回目を数えるこの展示会は、高瀬神社の夏の風物詩として広く知られており、開催期間中、可憐に咲き誇るたくさんの朝顔が、お参りの皆様に涼やかにお迎えします。

なお、朝顔は朝のうちが見ごろです。お誘い合わせの上、ぜひ皆様に足をお運び下さい。



期間 7月16日(土)~18日(月・祝)
10:00~16:00
場所 高瀬神社 平成殿

第22回人形展 一期一会
慣れ親しんだ人形とお別れは寂しいもの。ここにはそんな心を優しく癒すひとときがあります。
県内外で幅広く活躍する人形作家と、草月流富山県支部秀抱会とが織りなす、創作人形といけばなの共演。
心ゆくまでお楽しみ下さい。





大国さまの処方せん⑤

「子どもの健康とコロナとワクチン」

南砺市民病院 小児科部長 片山 啓太

コロナ禍に直面して二年が経過した。全世界のコロナ感染者は五億人を超え、何と世界の十五人に一人が感染したことになるという。次から次へと変異株が出現し、いまだに生活の質は元に戻っていない。

子どもの病気がすっかり様変わりした。二シーズンにわたってインフルエンザは全く流行らなかった。感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、手足口病もかなり少なかった。子どもはコロナ感染症に罹っても軽く経過し、重症化して入院する方は少ない。昨年唯一流行したRSウイルス感染症の方がはるかに症状が重いと言える。

ワクチンによって防ぐことのできる病気の予防は

れて痛いかもしれないが、重大な副反応は少ない。ワクチンの副反応が強調されすぎる傾向にあるが、ワクチンによってどれほど多くの子どもの健康や生命が守られてきたかということにもっと注目すべきではないだろうか。

ワクチンによってコロナの流行が抑えられ、また新たな感染症が出現しないことを祈りつつ、小児科医のメッセージとしたい。

片山 啓太先生

南砺市民病院小児科部長
金沢生まれ、大阪育ち。金沢大学医学部卒。医学博士。小児科専門医。
二十年以上にわたって、井波町、南砺市の小児医療および保健活動に取り組まれています。

医薬医療の神として知られる大国主大神（大国さま）のご神徳にちなんだこのコラムは、毎回、専門家の方にご寄稿いただき、読者の皆様の生活に役立つ医療知識などを発信いたします。

御社殿屋根修復事業奉賛者芳名

（順不同・敬称略）

令和四年三月一日〜令和四年五月三十一日

現在進捗中の本事業に対し、左記の方々より赤誠あふれるご奉賛を賜りました。
誌上より厚く御礼申し上げます。

【御社殿御簾一式】				石岡 敬夫	山本 裕司	脇本 千春	辻 明恵
【五十一万円】				高島 啓	澤田 康則	トレボー(株)	中田由紀子
【三十万円】				北村 竹司	医療法人社団 佐藤内科	高橋 太	高山 浩二
【十万円】				新井 政英	クリニック	高橋 美雪	高山 愛子
【五万円】				霜野 幸作	岩澤 健司	川村 尚孝	芳村伊十郎
【二万円】				(株)佐々木運輸	牧野 馨	宗井 芳明	向田 靖
【一万円】				佐々木章友	朴谷 光男	藤井 克己	向田 美穂
				徳川 清志	今井 光子	吉田 正博	向田 妙子
				前田 一	増元 光徳	林 駿	黒河 勝之
				尾崎 武司	西村 竜哉	神谷 英喜	中野 久美
				藤田 進弘	川島由美子	平野 拓美	三浦由美子
				藤井 俊和	宮原喜代和	中井 静子	村北 鋼志
				清水 勝	保坂多美子	嶋田 潤一	宮下 雅俊
				(株)ナンブ	北堀 一彦	吉川 禎尚	高矢 重徳
				藤田 春枝	西田 智彦	南部 多津	奈良 如紘
				柳瀬 勇三	前田 一	長森 恵	奈良 浩二
				片山 義昭	尾崎 武司	今井 光子	奈良 清美
					清水 照江	鈴木 淑子	備後 幸子
					梶 雅	荒井 肇	松井 歩
						安達 誠	山口 邦子
						荒井 啓輔	東 有香
						荒井純一郎	東 しおり
						藤井 澄子	上野 重典
						長谷川千哥	千村八恵美

安産祈願 戌の日カレンダー

7月	8日・20日
8月	18日・13日・25日
9月	6日・18日・30日
10月	12日・24日
11月	5日・17日・29日
12月	11日・23日

腹帯のお祓いも行いますので、
どうぞご持参下さい。

※作者の梅木信作氏は、昭和七年（令和元年）に、日本美術院の院友でいらっしやいました。

以上の皆様よりご奉納を賜りました。誌上より厚く御礼申し上げます。



奉納奉告祭での梅木ご夫妻

ご奉納御礼

【参道玉砂利】

株式会社 岡部

代表取締役社長 岡部 竜一殿

【参道玉砂利敷設奉仕】

株式会社 藤井組

代表取締役社長 藤井 秀之殿

【境内樹木剪定奉仕】

株式会社 越路ガーデン

代表取締役 西尾 倫顕殿

【絵画「残照」梅木信作画】

梅木 宏真殿

日本の新しい習慣として

なつもうで

夏詣 開催

期間 七月一日（金）～七日（木）

「夏詣」とは…

おおほろん

「大祓」は年に二回行われます。十二月三十一日の「師走の大祓」で罪穢れを祓い清めてから「初詣」に出かけ、新年の平穏を祈ります。

六月三十日の「夏越の大祓」でも同様に罪穢れを祓いますが、その後あらためて参拝する習慣はありませんでした。そこで、半年が無事に過ぎたことに感謝し、残る半年も平穏に過ごせるよう祈る参拝のことを「夏詣」と呼び、新しい習慣として提唱しています。



本殿前に飾られた風鈴



七夕飾りのお願い事短冊



風鈴には手作りの折り鶴と短冊

五五五個の風鈴の音色

高瀬神社では、この「夏詣」期間、社殿前などに風鈴を飾り、皆様に涼やかな音色をお楽しみいただいています。今年は昨年のおよそ倍の五五五個。どうぞ、ご家族お友達お揃いでお参り下さい。



夏詣期間限定の御朱印

表紙写真

境内を彩る四季折々の草花。季節の吊るし飾りと共に
お楽しみ下さい。

編集後記

松田聖子さん、中森明菜さんがそれぞれに歌い継ぐ「瑠璃色の地球」という歌を十数年ぶり

に聴き、感慨を新たにしました。かけがえのないこの星の、どの国にも、誰の命にも、夜明けの来ない夜などないということを、強く信じたい。

（智）

社報バックナンバーのご案内

当神社のホームページにてバックナンバーをご覧いただけます。祭典の由緒や行事の沿革など、過去の記事もご参考になさって下さい。 <https://www.takase.or.jp>



結びの杜の神前式

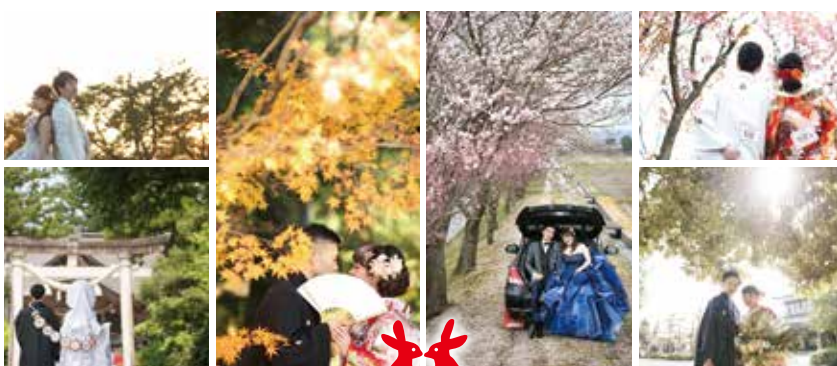
縁結びの神様、大国主大神をお祭りする越中一宮。

日常を隔てる境内で、玉砂利を踏みしめて歩く参進の儀に始まり、杜殿に響き渡る雅楽の調べの中、厳かな神前式が執り行われます。

大国様の「結び」の御神徳によりお二人だけではなく、両家の絆も固く結ばれます。



四季折々の境内で
ロケーションフォトを満喫



一日一組限定のおもてなし

完全な
プライベート空間で
和やかな宴会が実現
すべては一組の
新たな夫婦の幸福のために



結婚式をあきらめないでください

二人だけでも結婚式はできます。

「だったら、家族は欠かせないかな。」

「折角だから、親戚のみなさんだけでも。」

「できれば、近くに住む友人くらいは…」

列席を減らすのではなく、無理なく増やす。

そんな考え方で結婚式を叶えてみませんか。

挙式のみ、少人数会食、
高瀬神社は結婚されるすべての方を歓迎しています。



オープンエアな
プライベートテラスで
開放的な演出が実現

あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社

検索



高瀬神社LINE



高瀬神社HP